

3歳未満児の「言葉の領域」と保育活動についての 保育士の信念

Beliefs of nursery teachers about the area of language and
the activity under three years old

小椋たみ子・清水益治・鶴 宏史・南 憲治

Tamiko Ogura, Masuharu Shimizu, Hirofumi Tsuru, Kenji Minami

0・1・2歳児クラス担当保育士の「保育所保育指針・保育内容（言葉の領域）」の重視点、子どもへの言葉かけについての信念、絵本、ままごと、ビデオ・テレビ視聴のそれぞれの活動の意義についての信念、さらに信念と保育活動との関係を全国203の保育所の質問紙調査から明らかにした。保育士の言葉の領域の重視点では、「言葉での表現」と「言葉の豊かさ・楽しさ」の2因子が抽出され、どの年齢でも「言葉での表現」因子の得点が高く、基礎的な能力の方の重視度が高かった。保育士の子どもへの言葉かけについての信念では、「足場づくり的言葉かけ志向」と「言語情報志向」の2因子が抽出され、「足場づくり的言葉かけ志向」は0歳児が一番高く、年齢に伴い、減少したが、「言語情報志向」は0歳から2歳で有意に上昇していた。保育士の言葉についての信念と保育活動については、「言葉」の領域で「言葉の豊かさ・楽しさ」重視が「言葉での表現」重視よりも3つの活動と相関が高く、特に絵本意義得点との相関が高かった。子どもへの話しかけ方では、「言語情報志向」のほうが「足場づくり的言葉かけ志向」よりも3つの活動で相関が高く、特に絵本意義との相関が高かった。言葉で伝え合うことの楽しさ、喜びを重視する保育士、言語情報を与えることを重視する保育士は絵本の活動が子どもにとり良い活動であると考えていた。一方、テレビ・ビデオのメディア視聴は「めったにみせない・みせたことがない」の出現率が全年齢平均で66.4%にのぼり、また、意義得点は低かった。保育士の各活動の意義への信念と実際の保育活動の関係は、絵本の保有数以外、各活動の意義が高いと考えているほど、実際の活動の頻度、時間も有意に高いという結果であるが、特にその傾向はテレビ・ビデオで見られた。保育士の言葉かけや活動の意義についての信念が保育活動に反映されていることが示唆された。

キーワード： 保育士の信念、言葉、保育活動、3歳未満

目 的

子どもの言語獲得はヒトの精神を飛躍的に発達させる乳児期後半から幼児期前半において生起するきわめて重要な出来事である。子どもの言語獲得には子どもの物理的世界の認知、人の認知（社会的認知）をはじめとする言語以外の個体内能力や、養育者からの働きかけが重要な役割を果たしている。村瀬（2004）によれば、子どもがある文化において成長し、ある心理過程を形成

していくとき、子どもを取り囲む文化的環境がどのようなものであるかということが問題となる。文化的環境には物理的社会的文脈、子どもを取り巻く慣習、養育者の信念という3つの構成要素が含まれている。「信念」とはMcGillicuddy-DeLisi & Sigel (1995) やSigel & McGillicuddy-DeLisi (2002) によれば、ある事象に対する知識ベースの認知であり、意図や価値が織り込まれていると考えられている。養育者の言葉かけや子どもがかかわる物的環境をどのように養育者が準備するかについては養育者のそれぞれの活動(事象)に対する「信念」が大きく影響すると予想される。子どもに対する教示場面や社会化の場面に関して、養育者の信念と養育者の行動の関係が検討されてきたが、報告者が知る限り、保育士の信念と保育士の行動についての関係の研究はなされていない。

本研究では、保育所における3歳未満児の「言葉」の領域に焦点をあて、「保育士が0-3歳未満児の保育内容「言葉」の領域で何を重視しているか」、あるいは「保育士が子どもに話しをするとき、どのように話しかけたいと思っているか」、「絵本、ままごと、ビデオ・テレビの3つの活動が保育場面でどのように実施されているか」、「絵本、ままごと、ビデオ・テレビが子どもの発達にどのような意義があると保育士が考えているか(信念)」、「絵本、ままごと、ビデオ・テレビの活動に保育士の信念がどのように反映されているか」を明らかにする。

方 法

1. **調査対象**：全国の保育所1136カ所に質問紙を平成21年10月末に郵送配布し、11月末に203カ所から回収した(回収率17.8%)。各年齢クラス(4月時点での年齢)の回答者は0歳児クラス202名、1歳児クラス203名、2歳児クラス203名であった。回答時点の0歳児クラスの最低平均月齢は8.7ヶ月(SD 3.67)、最高平均月齢は17.6ヶ月(SD 2.07)、1歳児クラスの最低平均月齢は19.4ヶ月(SD 3.22)、最高平均月齢は29.5ヶ月(SD 2.87)、2歳児クラスの最低平均月齢は31.7ヶ月(SD 2.54)、最高平均月齢は41.6ヶ月(SD 2.83)であった。記入があった保育士568名の勤務年数は5年未満99名(17.4%)、5年以上10年未満131名(23.1%)、10年以上15年未満110名(19.4%)、15年以上20年未満78名(13.7%)、20年以上25年未満56名(9.9%)、25年以上30年未満45名(7.9%)、30年以上49名(8.6%)であった。
2. **質問紙**：1) **保育内容(言葉の領域)の重視度**：平成20年3月に厚生労働省から発表された「保育所保育指針」第3章「保育の内容」「1保育のねらい及び内容」の「エ 言葉」、「イ 内容」に掲載されている12項目を設定した(表1)。評定は「全く重視していない」(1)、「重視していない」(2)、「どちらかといえば重視していない」(3)、「どちらともいえない」(4)、「どちらかといえば重視している」(5)、「重視している」(6)、「非常に重視している」(7)の7件法で回答をもとめた。
- 2) **子どもへの言葉かけについての信念**：村瀬(2009)の1歳半の子どもに話しをするとき、どのように話しかけたいと思っているかに関する7項目と模倣、育児語での話しかけを追加して10項目を設定した(表3の8項目と2項目(「特別に教えなくても、まわりの人の言葉を聞いていると、子どもは自然と言葉をおぼえていくと思う」、「大人とあまり区別せずに、同じように話しかけるのがよいと思う」))。「全くそう思わない」(1)から「非常にそう思う」(7)の7件法で回答をもとめた。
- 3) **絵本、ままごと、ビデオ・テレビ視聴のそれぞれの活動の意義についての信念**：村瀬(2009)の1歳半児の親への絵本読みについての意義についての信念、秋田・無藤(1996)の幼稚園年

中組、年長組の親への読み聞かせの意義についての項目を保育園、各活動にあてはまるように言葉を一部変更して8項目を設定した(表6)。項目は、「全くそう思わない」(1)から「非常にそう思う」(7)の7件法で回答をもとめた。

4) 絵本、ままごと、ビデオ・テレビ視聴のそれぞれの活動の基本情報：①絵本：各クラスの絵本の保有数、設定保育で読み聞かせをする頻度、1日あたりの時間、自由場面での絵本読み頻度、1日あたりの時間、②ままごと遊び：設定保育での頻度、1日あたりの時間、自由場面でのままごと遊び頻度、1日あたりのままごと遊び時間、③ビデオ・テレビ：視聴頻度、1日あたりの視聴合計時間、1回の視聴平均時間と頻度について項目を設定した。頻度は「毎日する」から「めったにしない」の5段階評定、時間については「0分」、「5分未満」、「11-20分」、「21-30分」「31-60分」「61分以上」、ビデオ・テレビの1回にみせる平均時間は実時間で回答をえた。

結 果

I. 保育内容(言葉の領域)での重視点と保育士の言葉かけの信念

1. a. 保育内容(言葉の領域)の重視点：

12項目全部に回答した524名のデータから相関行列を算出し、最尤法、Varimax回転で因子分析し、最小固有値1以上を基準とし、スクリープロットから読み取れる固有値の減衰状況と、因子の解釈可能性も考慮した結果、因子数を2因子抽出した。表1にその結果を表示した。2因子

表1 領域「言葉」での保育士の重視点の因子分析結果

項目	F1	F2	h^2	平均	標準偏差
a1 保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、子どもが自ら言葉を使おうとする。	0.529	0.287	0.362	6.13	0.86
a2 保育士等と一緒にごっこ遊びなどをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。	0.562	0.327	0.423	6.17	0.86
a3 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。	0.706	0.289	0.582	5.94	0.95
a4 したこと、見たこと、聞いたこと、味わったこと、感じたこと、考えたことを自分なりに言葉で表現する。	0.817	0.298	0.757	5.68	1.16
a5 したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。	0.779	0.291	0.691	5.69	1.21
a6 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。	0.592	0.466	0.567	4.96	1.44
a7 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。	0.557	0.583	0.650	5.67	1.17
a8 親しみを持って日常のあいさつをする。	0.387	0.520	0.420	6.17	0.95
a9 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。	0.277	0.688	0.550	5.25	1.23
a10 いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。	0.327	0.714	0.617	5.72	1.12
a11 絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。	0.285	0.674	0.536	5.95	1.08
a12 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。	0.156	0.402	0.186	3.29	1.66
固有値	3.469	2.871			
寄与率(%)	28.911	23.925			
累積寄与率(%)	28.911	52.837			
信頼性(α)	0.864	0.764			

で全分散の52.83%が説明された。 .40以上に負荷がある項目で因子の解釈を行った。 2つの両方の因子に.40以上の負荷がある項目についてはどちらの因子にもいれなかった。 第1因子は「したこと、見たこと、聞いたこと、味わったこと、感じたこと、考えたことを自分なりに言葉で表現する」、「したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする」に高く負荷し、「言葉での表現」因子と命名した。 第2因子は「いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする」、「生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く」に負荷が高く、「言葉の豊かさ・楽しさ」因子と命名した。

b. 「言葉での表現」因子、「言葉の豊かさ・楽しさ」因子の年齢推移：

2つの因子は5項目で構成されていたので、各因子の合計点を算出し、表2に「言葉での表現」因子、「言葉の豊かさ・楽しさ」因子の各年齢の平均値と標準偏差を表示した。

表2 領域「言葉」で保育士が重視する2因子の各年齢の平均得点

領域「言葉」重視点	年齢	N	平均値	標準偏差
言葉での表現	0歳	161	27.55	5.45
	1歳	182	29.79	3.31
	2歳	191	31.08	2.74
	全年齢	534	29.58	4.17
言葉の豊かさ・楽しさ	0歳	161	25.34	5.32
	1歳	182	26.25	4.14
	2歳	191	27.27	3.73
	全年齢	534	26.34	4.46

合計点について、年齢、因子の2要因の繰り返しの分散分析を行った結果、年齢 ($F(2,531)=23.656, p<.001$)、因子 ($F(1,532)=378.015, p<.001$)の主効果があった。年齢に伴い、2因子とも平均得点は増大した。「言葉の豊かさ・楽しさ」因子は、0歳と1歳の間では有意な差はなく、「言葉での表現」因子のほうが「言葉の豊かさ・楽しさ」因子よりも得点が高かった。また、因子×年齢 ($F(2, 531)=8.659, p<.001$) の交互作用も有意な差があった。図1に交互作用の結果を図示した。

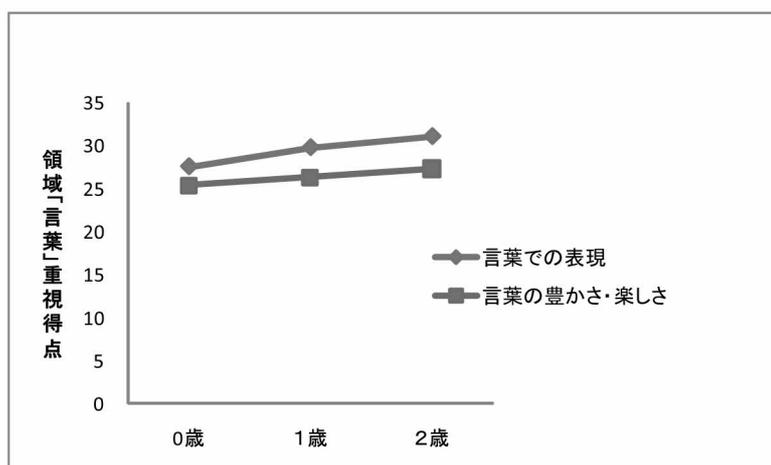


図1 領域「言葉」で保育士が重視する2因子の年齢推移

「言葉での表現」因子は0歳、1歳、2歳のそれぞれの年齢間で有意な差があったが、「言葉の楽しさ・豊さ」は0歳と1歳の平均得点の間に有意差はなく、1歳と2歳、0歳と2歳の間に有意な差があった。「言葉での表現」は0歳から1歳、1歳から2歳と発達に伴い保育士の重視度が増大する因子であるが、「言葉の豊かさ・楽しさ」は1歳から2歳にかけて、言葉がでてから重視される因子である。

2. 子どもへの言葉かけについての信念

10項目全部に回答した524名のデータから相関行列を算出し、主因子法、Varimax回転で因子分析し、最小固有値1以上を基準とし、スクリープロットから読み取れる固有値の減衰状況と、因子の解釈可能性も考慮し、さらに共通性が0.10以下の2項目（「特別に教えなくても、まわりの人の言葉を聞いていると、子どもは自然と言葉をおぼえていくと思う」、「大人とあまり区別せずに、同じように話しかけるのがよいと思う」）を削除し再度、561名のデータで主因子法、Varimax回転で因子分析し、因子数を2因子抽出した。表3にその結果を表示した。

表3 保育士の子どもへの言葉かけの信念の因子分析結果

項目	F1	F2	h ²
b1 身ぶりをつけてことばを話しかけたほうがよいと思う	0.460	0.201	0.253
b3 まわりのものに親しみがもてるように話しかけるのがよいと思う	0.307	0.318	0.195
b5 「ありがとう」・「おはよう」などのあいさつのことばをおぼえることは重要だと思	0.018	0.684	0.469
b6 優しく話しかけるのがよいと思う	0.361	0.196	0.169
b7 「これ何？」などの質問をして、ことばをひきだすようにするのがよいと思う	0.308	0.404	0.258
b8 子どもがまねしやすいように話しかけるのがよいと思う	0.783	0.209	0.657
b9 「りんご」、「ボール」などの物の名前を覚えることは重要だと思	0.222	0.636	0.454
b10 「わんわん」、「ねんね」、「ないない」など育児語をつかっはなしかけるのが子どもがことばを覚えるのによいと思	0.410	0.008	0.168
固有値	1.362	1.260	
寄与率(%)	17.025	15.753	
累積寄与率(%)	17.025	32.778	
信頼性(α)	0.567	0.619	

2因子で全分散の32.77%が説明された。 .40以上に負荷がある項目で因子の解釈を行った。第1因子は「子どもがまねしやすいように話しかけるのがよいと思う」、「身ぶりをつけてことばを話しかけたほうがよいと思う」に高く負荷し、村瀬（2009）の因子の命名から「足場づくり的言葉かけ志向」因子と命名した。第2因子は「「ありがとう」・「おはよう」などのあいさつのことばをおぼえることは重要だと思」、「りんご」、「ボール」などの物の名前を覚えることは重要だと思」に負荷が高く、村瀬（2009）の因子の命名から「言語情報志向」因子と命名した。2つの因子は3項目で構成されていたので、合計点について年齢、因子の2要因の繰り返しの分散分析を行った結果、言葉かけ信念因子（F(1, 564)=551.476, p<.001）、年齢（F(2,564)=7.91, p<.001）の主効果があった。また、因子×年齢の交互作用が有意であった（F(2,534)=56.152, p<.001）。2つの因子の各年齢の得点の平均値を表4と図2に示した。

表4 保育士の子どもへの言葉かけの信念の平均値

話しかけ信念因子	年齢	N	平均値	標準偏差
足場づくり的言葉かけ志向	0歳	173	15.47	2.50
	1歳	195	14.58	2.58
	2歳	199	13.21	2.54
	全年齢	567	14.37	2.70
言語情報志向	0歳	173	16.66	2.54
	1歳	195	17.21	2.19
	2歳	199	17.35	2.24
	全年齢	567	17.09	2.33

すべての年齢で言語情報志向因子の方が、「足場づくり的言葉かけ志向」因子より高かったが、年齢にともない両因子の差が大となった。「足場づくり的言葉かけ志向」因子は年齢に伴い有意に減少したが、「言語情報志向」因子は0歳と1歳、1歳と2歳の間には有意な差がなく、0歳と2歳の間で有意差があった。

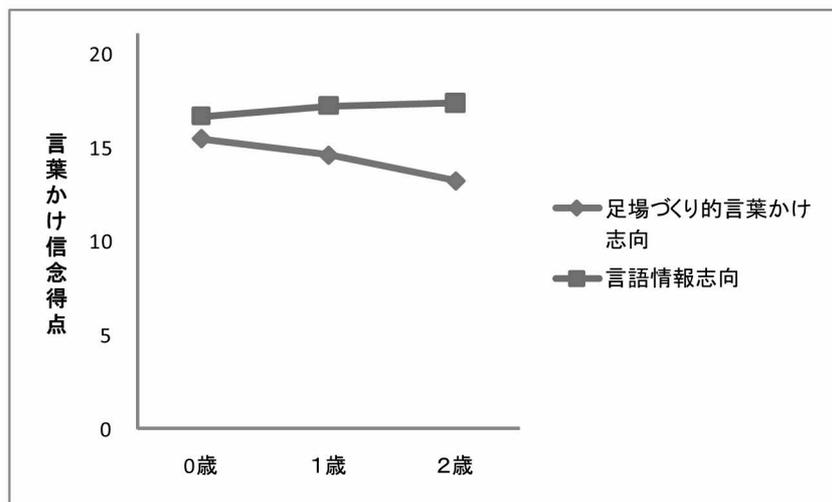


図2 保育士の言葉かけ信念2因子の年齢推移

II. 保育内容・活動と意義についての保育士の信念

1. 絵本

1) 絵本についての基本情報（各年齢の評定値の頻度、評定平均値、年齢についての1要因分散分析結果）を表5に示した。

①絵本の所有数：0歳、1歳、2歳児クラスとも11冊～20冊が一番高く50%台で、全年齢平均52.6%であった。評定値平均は年齢による有意差があり $F(2, 566)=7.233(p<.001)$ 、0歳と1歳の間で有意差があり、0歳から1歳にかけてクラスでの本の保有数は増加した。

②設定保育での読み聞かせの頻度：「毎日する」が0歳、1歳、2歳児クラスとも一番高い選択率で、0歳児40%、1歳児61.5%、2歳児61.4%で、全年齢平均54.8%であった。評定値平均は年齢による有意差があり $F(2, 568)=12.893(p<.001)$ 、読み聞かせをする頻度は0歳から1歳で有意に上昇した。

表5 絵本の所有数、頻度、時間についての各年齢の平均値と分散分析結果

1.0歳児のあなたのクラスには絵本がおよそ何冊くらいありますか。							平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
年齢/評定	ない	1-5冊	6冊-10冊	11冊-20冊	21-30冊	31冊以上						
0歳	0.0	12.6	26.3	50.9	9.1	1.1	3.60	0.86	7.239	2, 566	p<.001	0-1歳*
1歳	0.0	6.3	24.5	52.1	14.1	3.1	3.83	0.86				0-2歳*
2歳	0.5	5.5	18.5	54.5	17.5	3.5	3.94	0.87				
total平均	0.2	7.9	22.9	52.6	13.8	2.6	3.80	0.88				

2.絵本の読み聞かせをどのくらいしますか							平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
年齢/評定	毎日する	ほとんど毎日する	時々する	たまにする	めったにしない							
0歳	40.0	30.3	18.3	5.1	6.3	2.07	1.16	12.893	2, 568	p<.001	0-1歳*	
1歳	61.5	24.0	8.9	2.6	3.1	1.62	0.97				0-2歳*	
2歳	61.4	25.7	8.4	1.5	3.0	1.59	0.93					
total平均	54.8	26.5	11.6	3.0	4.0	1.75	1.04					

3.設定保育場面で本を読み聞かせる時間は1日何分くらいですか								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
年齢/評定	0分	5分未満	5-10分	11-20分	21-30分	31-60分	61分以上						
0歳	4.0	44.8	41.4	6.9	2.3	0.6	0.0	2.60	0.82	17.814	2, 566	p<.001	0-1歳*
1歳	2.6	26.6	49.0	18.8	2.1	1.0	0.0	2.94	0.86				0-2歳*
2歳	3.0	15.4	54.2	22.4	3.5	1.5	0.0	3.12	0.87				
total平均	3.2	28.2	48.5	16.4	2.6	1.1	0.0	2.90	0.88				

4.子どもが自由場面で絵本を読んだり、見たりする時間がありますか							平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
年齢/評定	毎日ある	ほとんど毎日ある	時々ある	たまにある	めったにない							
0歳	44.1	26.0	19.8	6.8	3.4	1.99	1.11	6.890	2,574	p<.001	0-1歳*	
1歳	54.6	27.6	14.8	1.5	1.5	1.68	0.89				0-2歳*	
2歳	57.9	26.2	11.4	1.5	3.0	1.65	0.95					
total平均	52.5	26.6	15.1	3.1	2.6	1.77	0.99					

5.自由場面で子どもが絵本を読んだり、見たりする時間は1日何分くらいですか								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
年齢/評定	0分	5分未満	5-10分	11-20分	21-30分	31-60分	61分以上						
0歳	2.8	27.8	43.2	17.6	5.7	0.6	2.3	3.06	1.10	22.046	2, 569	p<.001	0-1歳*
1歳	1.5	17.4	39.0	24.6	13.3	2.1	2.1	3.45	1.15				0-2歳*
2歳	1.5	7.0	31.2	36.2	17.1	4.5	2.5	3.84	1.13				1-2歳*
total平均	1.9	17.0	37.5	26.5	12.3	2.5	2.3	3.47	1.17				

*p<.05

③設定保育場面での読み聞かせ時間：0歳クラスは5分未満が44.8%、次に5-10分が41.4%であったが、1歳児は5-10分が49.0%、2歳児も5-10分が54.2%で最高であった。全体では、1日の読み聞かせ時間は、5-10分の読み聞かせが48.5%で一番多かった。評定値平均は年齢による有意差があり $F(2, 566)=17.814(p<.001)$ 、1日に読み聞かせをする時間は0歳から1歳で有意に上昇した。

④自由場面での絵本読み：子どもが自由に絵本読みをするかに対して0歳、1歳、2歳とも毎日あるが一番高い出現率で全体平均は52.5%であった。評定値平均は年齢による有意差があり $F(2, 574)=6.890(p<.001)$ 、自由場面で子どもが本をみるのは0歳から1歳で有意に上昇した。

⑤自由場面での本読み時間は、0歳は5-10分が43.2%、次に11-20分が17.6%、1歳は5-10分が39.0%、次に11-20分が24.6%、2歳は11-20分が39.0%、次に5-10分が31.2%で2歳では11-20分くらい集中して本読みができた。評定値平均は年齢による有意差があり $F(2, 569)=22.046(p<.001)$ 、自由場面で子どもが本をみる時間は0歳から1歳、1歳から2歳で有意に上昇した。

2) 保育士の絵本活動の意義についての信念

①出現率：各項目の0歳、1歳、2歳の各評定値の出現頻度を表6に示した。

表6 絵本活動の意義についての保育士の各評定の頻度と評定平均値及び年齢の1要因分散分析結果

1.子どもに集中力がつく								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	1.1	1.1	8.6	21.1	38.3	29.7	5.834	1.056	2.714	2,570	p<.10	1-2歳*
1歳	0.0	1.0	1.0	7.2	24.1	45.1	21.5	5.759	0.973				
2歳	0.0	0.5	0.5	2.5	21.9	46.3	28.4	5.980	0.854				
total平均	0.0	0.9	0.9	6.0	22.4	43.4	26.4	5.860	0.963				
2.ことばがふえる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	0.6	0.6	1.1	23.0	39.7	35.1	6.057	0.878	1.713	2,570	ns	
1歳	0.0	0.0	1.5	1.5	17.9	47.7	31.3	6.056	0.832				
2歳	0.0	0.0	0.0	1.0	15.3	47.5	36.1	6.188	0.722				
total平均	0.0	0.2	0.7	1.2	18.6	45.2	34.2	6.103	0.811				
3.日常生活に必要なことが身につく								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.6	2.9	4.6	20.7	29.9	26.4	14.9	5.155	1.260	1.130	2,569	ns	
1歳	0.0	1.0	4.6	16.8	30.1	37.2	10.2	5.286	1.072				
2歳	0.0	1.5	0.5	16.0	39.5	31.5	11.0	5.320	0.986				
total平均	0.2	1.8	3.2	17.7	33.3	31.9	11.9	5.258	1.105				
4.はなしをする力がつく								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	1.2	1.2	13.9	34.1	33.5	16.2	5.462	1.031	3.738	2,569	p<.05	0-2歳*
1歳	0.0	0.5	0.5	14.9	28.7	37.9	17.4	5.554	0.995				
2歳	0.0	0.5	0.5	6.9	30.2	41.1	20.8	5.733	0.918				
total平均	0.0	0.7	0.7	11.8	30.9	37.7	18.2	5.589	0.985				
5.子どもが空想したり夢をもつ								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.6	1.7	1.7	5.7	17.8	39.7	32.8	5.885	1.142	9.225	2,570	p<.05	0-2歳*
1歳	0.5	1.5	0.5	5.1	14.3	49.0	29.1	5.944	1.029				1-2歳*
2歳	0.0	0.0	0.0	1.0	9.5	50.7	38.8	6.274	0.671				
total平均	0.4	1.1	0.7	3.9	13.7	46.8	33.6	6.042	0.972				
6.本を通して保育士とのふれあいができる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	0.0	0.0	2.3	9.7	36.0	52.0	6.377	0.755	4.154	2,570	p<.05	0-2歳*
1歳	0.0	0.0	0.0	0.5	16.4	45.1	37.9	6.205	0.724				
2歳	0.0	0.0	0.5	2.0	10.9	53.2	33.3	6.169	0.736				
total平均	0.0	0.0	0.2	1.6	12.4	45.2	40.6	6.245	0.742				
7.ものごとを深く考えるきっかけとなる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	1.2	2.9	5.8	30.1	25.4	21.4	13.3	4.931	1.314	4.785	2,564	p<.05	0-2歳*
1歳	0.5	2.6	4.1	25.8	34.0	24.2	8.8	4.979	1.156				1-2歳*
2歳	0.5	1.5	2.0	16.7	37.4	28.8	13.1	5.278	1.099				
total平均	0.7	2.3	3.9	23.9	32.6	25.0	11.7	5.069	1.196				
8.本を通して他の子どもとのふれあいができる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	1.7	4.6	17.8	31.0	29.3	15.5	5.282	1.166	4.174	2,570	p<.05	0-2歳*
1歳	1.0	1.5	2.6	12.2	33.7	36.7	12.2	5.352	1.125				
2歳	0.0	0.0	1.0	9.5	35.8	37.8	15.9	5.582	0.902				
total平均	0.4	1.1	2.6	13.0	33.6	34.9	14.5	5.412	1.071				

* p<.05

「そう思う」と「非常にそう思う」を合計した出現率から本を読んだり、みたりすることの意義として出現率が高かった項目の第一位は「本を通して保育士との触れ合いができる」が85.8%、第2位が「子どもが空想したり夢をもつ」が80.4%であった。第3位が「ことばがふえる」で79.3%、第4位が「子どもに集中力がつく」で69.9%、第5位が「はなしをする力がつく」が56.0%であった。最下位は「ものごとを深く考えるきっかけとなる」が36.6%であった。

② 8項目の因子分析と年齢推移

設定した8項目の全部に記入した555名のデータから評定値間の相関行列をもとめ、主因子法で因子分析したところ、1因子が抽出され、この1因子で分散の45.8%が説明され、共通性はすべて、2以上であった。表7に因子分析の結果を示した。1因子で構成されていたので、

表7 絵本の意義についての因子分析結果

項目	F1	h^2	平均値	標準偏差
1.子どもに集中力がつく	0.673	0.453	5.861	0.947
2.ことばがふえる	0.702	0.493	6.106	0.796
3.日常生活に必要なことが身につく	0.755	0.570	5.256	1.104
4.はなしをする力がつく	0.819	0.671	5.591	0.973
5.子どもが空想したり夢をもつ	0.620	0.384	6.045	0.957
6.本を通して保育士とのふれあいができる	0.464	0.216	6.241	0.745
7.ものごとを深く考えるきっかけとなる	0.704	0.496	5.076	1.180
8.本を通して他の子どもとのふれあいができる	0.622	0.387	5.418	1.047
固有値	3.668			
寄与率(%)	45.852			
累積寄与率(%)	45.852			
信頼性(α)	0.866			

各項目の評定値の合計得点を算出し、年齢を独立変数として一要因の分散分析を行ったところ、年齢の主効果が有意であったが ($F(2,554)=3.568, p<05$)、DunnnettT3で年齢間の対検定をおこなったところ年齢差が有意な年齢対はなかった。図3に意義についての8項目の合計得点の年齢推移を示した。図3には後に述べるままごと遊び、テレビ・ビデオの意義の信念の結果も一緒に図示した。

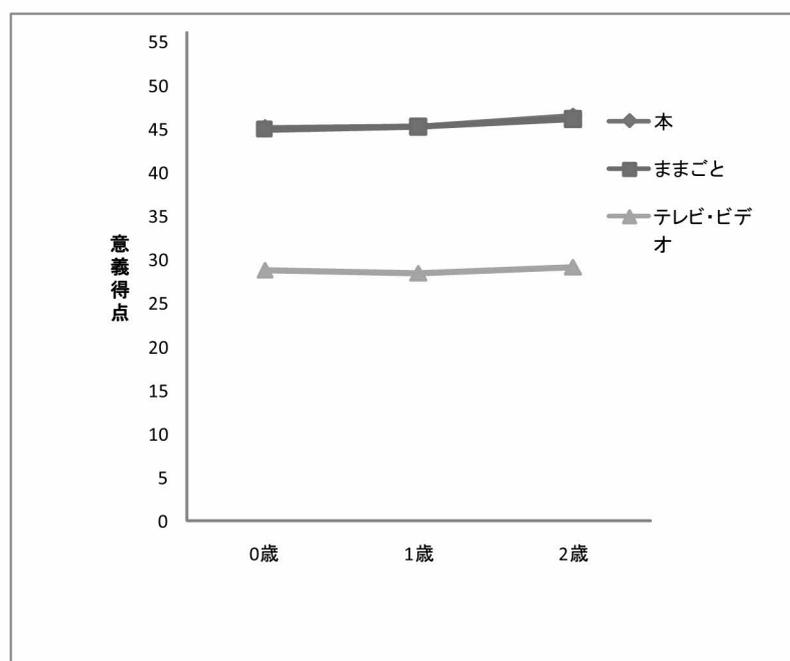


図3 絵本、ままごと、テレビ・ビデオの意義得点の年齢推移

2. ままごと遊び

1) 0歳、1歳、2歳児クラスのままごと遊びの基本情報（各年齢の評定値の頻度、評定平均値、年齢についての1要因分散分析結果）を表8に示した。

設定保育でのままごと遊びをする頻度は「時々する」の出現率が全年齢で一番高く、41.8%であった。また、評定値平均は年齢による有意差があり $F(2, 551)=4.530(p<.05)$ 、0歳よりも1歳、2歳ではままごと遊びをする頻度はふえている。設定保育での1日のままごと遊びの時間は、21-30分を行うとの回答は全年齢の平均では一番高い出現率で、0歳では18.1%であったが、1歳で36.7%、2歳で44.4%であった。設定保育での1日のままごと遊び時間の評定値平均は年齢による有意差があり $F(2, 542)=30.118(p<.001)$ 、0歳よりも1歳、2歳ではままごと遊びをする時間はふえている。自由場面でのままごと遊びは、「毎日ある」が全年齢平均で30.9%、「ほとんど毎日ある」が全年齢平均で30.6%で高い頻度で行われていた。評定値平均は年齢による有意差があり $F(2, 568)=24.101(p<.001)$ 、0歳よりも1歳、2歳ではままごと遊びを自由遊びでする頻度は高かった。自由遊び場面でままごと遊びをする1日の時間は11-20分が全年齢平均では一番高い比率で全年齢平均の出現率は34.5%で、次が21-30分の24.5%であった。評定値平均は年齢による有意差があり $F(2, 559)=58.744(p<.001)$ 、0歳より1歳が、1歳よりも2歳が長い時間自由遊び場面でままごと遊びをしていた。

表8 ままごと遊びの頻度、時間についての年齢推移

1. ままごと遊びをどのくらいしますか													
年齢/評定	毎日する	ほとんど毎日する	時々する	たまにする	めったにしない	平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢		
0歳	4.8	22.2	31.1	16.8	25.1	3.353	1.213	4.530	2, 551	p<.05	0-1歳*		
1歳	12.6	14.2	46.3	15.3	11.6	2.989	1.127						
2歳	8.7	14.9	46.7	14.9	14.9	3.123	1.110						
total平均	8.9	16.8	41.8	15.6	16.8	3.147	1.155						
2. ままごと遊びの時間は1日何分くらいですか													
年齢/評定	0分	5分未満	5-10分	11-20分	21-30分	31-60分	61分以上	平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
0歳	18.7	7.2	19.9	33.1	18.1	3.0	0.0	3.337	1.429	30.118	2, 542	p<.001	0-1歳*
1歳	8.5	1.6	11.7	33.5	36.7	8.0	0.0	4.122	1.275				0-2歳*
2歳	7.9	2.6	5.3	23.8	44.4	15.3	0.5	4.423	1.345				
total平均	11.4	3.7	12.0	30.0	33.7	9.0	0.2	3.987	1.419				
3. 自由場面でままごと遊びをする時間はありますか													
年齢/評定	毎日ある	ほとんど毎日ある	時々ある	たまにある	めったにない	平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢		
0歳	19.3	28.1	28.7	9.4	14.6	2.719	1.289	24.101	2, 568	p<.001	0-1歳*		
1歳	35.7	27.6	29.6	6.1	1.0	2.092	0.993				0-2歳*		
2歳	36.1	35.6	21.8	5.4	1.0	1.995	0.944						
total平均	30.9	30.6	26.5	6.9	5.1	2.246	1.118						
4. 自由場面でままごと遊びをする時間は1日何分くらいですか													
年齢/評定	0分	5分未満	5-10分	11-20分	21-30分	31-60分	61分以上	平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
0歳	11.2	9.5	32.5	29.0	13.0	3.6	1.2	3.38	1.31	58.744	2, 559	p<.001	0-1歳*
1歳	0.5	5.2	19.3	36.5	24.5	12.5	1.6	4.23	1.13				1-2歳*
2歳	0.5	0.0	8.5	37.2	34.2	14.6	5.0	4.68	1.02				0-2歳*
total平均	3.8	4.6	19.5	34.5	24.5	10.5	2.7	4.14	1.27				

*p<.05

2) 保育士のままごとの意義についての信念

① 出現率：各項目の0歳、1歳、2歳の各評定値の出現頻度を表9に示した。

表9 ままごとの意義についての保育士の各評定の頻度と評定平均値及び年齢の1要因分散分析結果

1.子どもに集中力がつく								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	2.4	3.5	28.2	30.6	27.1	8.2	5.012	1.115	0.955	2,565		
1歳	0.0	2.1	4.6	29.2	39.5	17.9	6.7	4.867	1.047				
2歳	0.5	1.0	2.5	27.9	38.8	23.4	6.0	4.975	1.012				
total平均	0.2	1.8	3.5	28.4	36.6	22.6	6.9	4.949	1.056				
2.ことばがふえる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	0.6	0.6	7.0	23.8	47.7	20.3	5.785	0.908	3.173	2,569	p<.05	
1歳	0.0	0.0	0.0	3.1	27.2	50.3	19.5	5.862	0.757				
2歳	0.0	0.0	1.0	1.5	22.2	47.8	27.6	5.995	0.805				
total平均	0.0	0.2	0.5	3.7	24.4	48.6	22.6	5.886	0.825				
3.日常生活に必要なことが身につく								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	1.2	2.3	14.0	26.7	41.3	14.5	5.483	1.051	2.174	2,568	ns	
1歳	0.0	0.5	1.5	12.8	30.8	36.9	17.4	5.544	1.006				
2歳	0.0	1.0	0.0	7.9	28.2	46.0	16.8	5.688	0.912				
total平均	0.0	0.9	1.2	11.4	28.6	41.5	16.3	5.576	0.990				
4.はなしをする力がつく								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	1.2	1.2	9.9	32.7	41.5	13.5	5.526	0.966	7.521	2,566	p<.05	0-2歳*
1歳	0.0	0.5	0.0	6.7	31.4	48.5	12.9	5.660	0.826				1-2歳*
2歳	0.0	0.0	0.0	5.4	24.8	47.0	22.8	5.871	0.825				
total平均	0.0	0.5	0.4	7.2	29.5	45.9	16.6	5.695	0.880				
5.子どもが空想したり夢をもつ								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.6	0.0	1.2	11.0	29.1	36.6	21.5	5.640	1.036	3.228	2,565	p<.05	
1歳	0.5	1.5	0.0	8.8	25.8	44.3	19.1	5.670	1.035				
2歳	0.0	0.0	0.5	6.0	20.0	53.0	20.5	5.870	0.822				
total平均	0.4	0.5	0.5	8.5	24.7	45.1	20.3	5.731	0.970				
6.ままごと遊びを通して保育士とのふれあいができる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	0.0	0.0	1.7	11.0	40.7	46.5	6.320	0.739	0.150	2,568	ns	
1歳	0.0	0.0	0.5	0.5	10.3	43.6	45.1	6.323	0.720				
2歳	0.0	0.0	0.0	1.0	11.4	45.5	42.1	6.287	0.703				
total平均	0.0	0.0	0.2	1.1	10.9	43.4	44.5	6.309	0.719				
7.ものごとを深く考えるきっかけとなる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.6	3.6	6.5	36.7	30.2	16.0	6.5	4.663	1.164	1.410	2,563	ns	
1歳	0.5	2.6	3.6	31.8	36.9	19.0	5.6	4.815	1.078				
2歳	1.0	1.0	5.0	30.5	34.5	24.0	4.0	4.845	1.066				
total平均	0.7	2.3	5.0	32.8	34.0	19.9	5.3	4.780	1.101				
8.ままごと遊びを通して他の子とのふれあいができる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	0.0	0.0	0.0	2.9	11.1	41.5	44.4	6.275	0.775	4.349	2,566	p<.05	0-2歳*
1歳	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	42.6	49.7	6.421	0.632				
2歳	0.0	0.0	0.0	0.5	8.0	34.3	57.2	6.483	0.664				
total平均	0.0	0.0	0.0	1.1	8.8	39.3	50.8	6.399	0.693				

*p<.05, ns: not significant

「そう思う」と「非常にそう思う」を合計した出現率からままごとの意義として出現率が高かった項目の第一位は「ままごと遊びを通して他の子どもとのふれあいができる」が90.1%、第二位が「ままごとを通して保育士とのふれあいができる」が87.9%、第三位が「ことばがふえる」が71.2%、第四位が「子どもが空想したり夢をもつ」が65.4%で、最下位は「ものごとを深く考えるきっかけとなる」が25.2%であった。

8項目の全部に記入した552名のデータから評定値間の相関行列をもとめ、最尤法、Varimaxで因子分析したところ、2因子が抽出され、この2因子で分散の54.5%が説明され、共通性はすべて.4以上であった。表10に因子分析の結果を示した。第一因子は「話をする力がつく」「ことばがふえる」「日常生活に必要なことが身につく」などの6項目に.40以上の負荷があり、「能力習得意義」と命名した。第二因子は「ままごとを通して、他の子どもとのふれあいができる」「ままごとを通して、保育士とのふれあいができる」の2項目に負荷が高く「コミュニケーション意義」と命名した。

表10 ままごとの意義についての因子分析

項目	F1	F2	h^2	平均値	標準偏差
1.子どもに集中力がつく	0.627	0.159	0.418	4.958	1.054
2.ことばがふえる	0.724	0.370	0.660	5.900	0.812
3.日常生活に必要なことが身につく	0.702	0.240	0.551	5.587	0.988
4.はなしをする力がつく	0.825	0.298	0.769	5.703	0.883
5.子どもが空想したり夢をもつ	0.596	0.278	0.433	5.737	0.967
6.ままごと遊びを通して保育士とのふれあいができる	0.204	0.699	0.530	6.306	0.722
7.ものごとを深く考えるきっかけとなる	0.627	0.157	0.417	4.779	1.102
8.ままごと遊びを通して他の子どもとのふれあいができる	0.266	0.719	0.588	6.402	0.685
固有値	2.951	1.416			
寄与率(%)	36.882	17.702			
累積寄与率(%)	36.882	54.584			
信頼性(α)	0.867	0.707			

2因子の評定値の合計得点を算出し、各年齢の平均値を表11に示した。年齢を独立変数として一要因の分散分析を行ったところ、能力習得意義は年齢の主効果($F(2,553)=2.909, p<.10$)、「コミュニケーション意義」の主効果($F(2,565)=.914, ns$)は有意な差はなかった。

表11 ままごとの意義の2因子の各年齢の平均値

因子	年齢	N	平均値	標準偏差
能力習得意義 (Max.35)	0歳	165	32.24	5.06
	1歳	193	32.40	4.35
	2歳	196	33.28	4.12
	全年齢	554	32.66	4.51
コミュニケーション意義 (Max.14)	0歳	170	12.61	1.32
	1歳	195	12.74	1.20
	2歳	201	12.77	1.20
	全年齢	566	12.71	1.24

3. テレビ、ビデオ

1) 0歳、1歳、2歳児クラスのテレビ、ビデオの視聴頻度、1日視聴合計時間、1回の視聴時間の各評定の年齢別の頻度、評定値の平均値を表12に示した。

表12 テレビ、ビデオの視聴の頻度、時間についての各年齢の平均値と分散分析結果

1. ビデオ・テレビをどのくらいみせますか														
年齢/評定	毎日みせる	ほとんど毎日みせる	時々みせる	たまにみせる	めったにみせない	全くみせたことがない	平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢		
0歳	2.3	11.0	5.2	7.6	62.8	11.0	3.843	1.758	0.153	2, 552	ns			
1歳	9.1	12.4	8.6	6.5	58.1	5.4	3.758	1.674						
2歳	9.7	7.2	9.2	11.3	57.4	5.1	3.841	1.625						
total平均	7.2	10.1	7.8	8.5	59.3	7.1	3.814	1.681						
2. 保育園でビデオ・テレビをみせる時間は1日合計どれくらいですか														
年齢/評定	0分	5分未満	5-10分	11-20分	21-30分	31-1時間以内	1時間以上2時間以内	2時間以上	平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢
0歳	68.0	2.4	8.9	8.9	8.3	3.0	0.6	0.0	1.982	1.583	3.435	2, 554	p<.05	0-2歳*
1歳	58.2	2.1	10.6	13.8	8.5	5.8	1.1	0.0	2.339	1.760				
2歳	57.4	1.0	7.1	15.7	12.7	6.1	0.0	0.0	2.437	1.793				
total平均	60.9	1.8	8.8	13.0	9.9	5.0	0.5	0.0	2.265	1.728				
3. 1回にみせる平均時間(分) みせない回答者も含む														
年齢	平均値(分)	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢								
0歳	5.06	8.97	6.047	2,562	0.003	0-1歳*								
1歳	7.71	11.63				0-2歳*								
2歳	9.09	12.64												
total平均	7.37	11.36												
3'. 1回にみせる平均時間(分)。みせない回答者を除いた場合(223名)														
年齢	平均値(分)	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり年齢								
0歳	16.41	8.63	2.012	2, 222	0.136									
1歳	18.41	11.23												
2歳	20.11	11.47												
total平均	18.60	10.81												

* p<.05

テレビ・ビデオをみせる頻度では「めったにみせない」がどの年齢でも一番高く、全体平均は59.3%であった。回答項目にいれていなかったが「全くみせたことがない」と記載された回答が全年齢平均で7.1%あり、「めったにみせない・全くみせたことがない」は全年齢平均が66.4%であった。評定値平均は年齢による有意差があり (F(2, 552)=4.792(p<.01)で、0歳は1歳よりも評定値が高く、1歳よりもみせないという評定結果であった。1日合計でみせる時間(保育園でビデオ・テレビを見せる時間は1日合計どれくらいですか)は0分がどの年齢でも一番高く、全体平均は60.9%であった。次が11-20分で全年齢平均の出現率は13.0%であった。評定値平均は年齢による有意差があったが (F(2, 554)=3.435(p<.05)、0歳-1歳、1歳-2歳の隣接年齢での有意な差はなかった。1回にみせる平均時間は0分が全年齢平均で60.4%であった。この0分をいれた平均の1回の視聴時間は0歳が5.06分、1歳が7.7分、2歳が9.0で全平均が7.3分であった。年齢の主効果 (F(2, 562)=6.047(p<.01)で、0歳は1歳よりも1回の平均視聴時間は短かった。テレビ・ビデオの視聴時間0分は0歳121名、1歳111名、2歳108名で、この視聴0分を除いて、1回あたりの視聴時間を算出すると0歳16.41、1歳18.41、2歳20.11であった。年齢の主効果 (F(2, 222)=2.012, ns)はなかった。

2) 保育士のテレビ・ビデオの意義についての信念：各項目の0歳、1歳、2歳の各評定値の出現頻度を表13に示した。

表13 テレビ・ビデオの意義についての保育士の各評定の頻度と評定平均値及び年齢の1要因分散分析結果

1.子どもに集中力がつく								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	13.0	14.8	8.6	40.1	13.0	8.6	1.9	3.586	1.527	0.223	2,537	ns	
1歳	9.2	20.7	11.4	38.0	13.0	7.1	0.5	3.484	1.406				
2歳	8.3	19.3	13.0	36.5	17.2	5.2	0.5	3.526	1.365				
total平均	10.0	18.4	11.2	38.1	14.5	6.9	0.9	3.530	1.427				
2.ことばがふえる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	7.4	11.7	7.4	25.8	33.7	12.9	1.2	4.104	1.472	0.370	2,538	ns	
1歳	6.0	10.3	12.5	26.6	31.5	9.2	3.8	4.103	1.451				
2歳	3.1	11.5	7.8	34.9	25.5	15.6	1.6	4.214	1.343				
total平均	5.4	11.1	9.3	29.3	30.1	12.6	2.2	4.143	1.418				
3.日常生活に必要なことが身につく								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	9.3	11.8	11.8	41.0	20.5	5.0	0.6	3.689	1.343	0.750	2,538	ns	
1歳	7.6	9.7	16.2	41.6	16.2	7.0	1.6	3.768	1.333				
2歳	2.1	14.0	10.9	49.2	18.1	4.7	1.0	3.855	1.141				
total平均	6.1	11.9	13.0	44.2	18.2	5.6	1.1	3.776	1.270				
4.はなしをする力がつく								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	10.5	13.6	14.2	34.0	21.6	4.9	1.2	3.623	1.423	1.360	2,540	ns	
1歳	9.7	14.6	18.9	34.1	17.8	3.8	1.1	3.514	1.360				
2歳	5.2	15.5	12.4	41.2	19.1	6.2	0.5	3.742	1.278				
total平均	8.3	14.6	15.2	36.6	19.4	5.0	0.9	3.628	1.351				
5.子どもが空想したり夢をもつ								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	6.8	7.4	8.0	32.1	27.8	16.0	1.9	4.222	1.427	2.039	2,540	ns	
1歳	6.5	8.6	7.0	33.5	27.6	14.6	2.2	4.195	1.424				
2歳	3.1	6.7	9.3	26.8	35.1	14.4	4.6	4.459	1.335				
total平均	5.4	7.6	8.1	30.7	30.3	15.0	3.0	4.298	1.396				
6.ビデオ・DV・テレビを通して保育士とのふれあいができる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	20.4	21.6	13.0	29.6	12.3	2.5	0.6	3.019	1.468	0.418	2,539	ns	
1歳	21.6	21.1	13.5	30.3	9.7	3.8	0.0	2.968	1.456				
2歳	23.3	19.2	17.1	29.5	8.3	2.6	0.0	2.881	1.407				
total平均	21.9	20.6	14.6	29.8	10.0	3.0	0.2	2.952	1.441				
7.ものごとを深く考えるきっかけとなる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	13.7	13.7	13.7	42.2	14.3	2.5	0.0	3.373	1.331	0.261	2,539	ns	
1歳	12.4	18.9	17.8	36.2	9.7	4.3	0.5	3.270	1.360				
2歳	10.8	22.2	12.4	36.1	14.9	2.6	1.0	3.340	1.380				
total平均	12.2	18.5	14.6	38.0	13.0	3.1	0.6	3.326	1.357				
8.ビデオ・DV・テレビを通して他の子どものふれあいができる								平均評定値	標準偏差	F値	df	p	対検定有意差あり
全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	非常にそう思う							
0歳	18.0	21.1	16.1	29.8	11.2	3.7	0.0	3.062	1.422	0.374	2,539	ns	
1歳	21.1	22.2	12.4	30.8	10.3	2.2	1.1	2.978	1.471				
2歳	17.5	19.6	13.4	36.1	11.9	1.0	0.5	3.103	1.381				
total平均	18.9	20.9	13.9	32.4	11.1	2.2	0.6	3.048	1.423				

ns: not significant

8項目に対する回答で「ことばがふえる」の項目は「どちらかといえばそう思う」が全年齢平均30.1%、「どちらともいえない」が29.3%とほぼ同じ出現率であった以外、他の項目の回答は「どちらともいえない」の出現率が一番高かった。「保育士とのふれあいができる」は全年齢平均

をみると「全くそう思わない」が21.9%、「そう思わない」が20.6%、「どちらかといえばそう思わない」が14.6%で、触れ合いを否定する回答の比率が57.1%と高かった。また、言葉については「はなしをする力がつく」との回答で「どちらかといえばそう思う」が19.4%、「そう思う」が5.0%、「非常にそう思う」が0.9%で肯定的な回答は25.3%、「ことばがふえる」は「どちらかといえばそう思う」が30.1%、「そう思う」が12.6%、「非常にそう思う」が2.2%で肯定的な回答は44.9%であった。

② 8項目の因子分析と年齢推移：設定した8項目の全部に記入した533名のデータから評定値間の相関行列をもとめ、主因子法で因子分析したところ、1因子が抽出され、この1因子で分散の63.5%が説明され、共通性はすべて.5以上であった。表14に因子分析の結果を示した。

表14 テレビ・ビデオの意義の因子分析結果

項目	F1	h ²	平均値	標準偏差
1.子どもに集中力がつく	0.798	0.637	3.535	1.424
2.ことばがふえる	0.811	0.657	4.143	1.423
3.日常生活に必要なことが身につく	0.850	0.723	3.786	1.265
4.はなしをする力がつく	0.851	0.725	3.636	1.355
5.子どもが空想したり夢をもつ	0.764	0.583	4.308	1.384
6.ビデオ・DV・テレビを通して保育士とのふれあいができる	0.750	0.563	2.962	1.444
7.ものごとを深く考えるきっかけとなる	0.816	0.666	3.330	1.354
8.ビデオ・DV・テレビを通して他の子とのふれあいができる	0.727	0.528	3.056	1.426
固有値	5.082			
寄与率(%)	63.521			
累積寄与率(%)	63.521			
信頼性(α)	0.932			

1因子で構成されていたので、各項目の評定値の合計得点を算出し、年齢を独立変数として一要因の分散分析を行ったところ、有意な年齢差はなかった(F(2,532)=.281,ns)。テレビ・ビデオの意義についての8項目総得点の年齢推移については、すでに図3に示した。

4. 絵本、ままごと、テレビ・ビデオの意義について各項目比較

絵本、ままごと、テレビ・ビデオの活動に見出す意義が異なるか、また、年齢によりその意義の効果は異なっているかを明らかにするために、各8項目の意義についての評価の0歳、1歳、2歳での平均点、標準偏差、年齢、繰り返し(3つの活動)の分散分析の結果を表15に示した。3つの活動のすべてに記入したデータを分析したので、Nが各項目で異なっている。

1)「集中力がつく」は活動による平均点の差が有意で、各活動の評定値間には有意な差があり、絵本、ままごと、テレビ・ビデオの順に集中力がつくと評定していた。また、年齢の主効果が有意で、0歳と1歳の間には有意な差があり、0歳のほうが他の年齢より集中力が3種類の活動でつくると評定していた。

2)「ことばがふえる」は活動による平均点の差が有意で、各活動の評定値間には有意な差があり、絵本、ままごと、テレビ・ビデオの順にことばがふえると評定していた。また、年齢の主効果、年齢×活動内容の交互作用には有意な差がなかった。

3)「日常生活に必要なことが身につく」は活動による平均点の差が有意で、各活動の評定値間には有意な差があり、ままごと、絵本、テレビ・ビデオの順に日常生活に必要なことが身につくとしていた。また、年齢の主効果、年齢×活動内容の交互作用には有意な差がなかった。

4)「話をする力がつく」は、活動による平均点の差が有意で、テレビ・ビデオは本、ままごとより有意に低く、絵本、ままごとは有意な差がなかった。また、年齢の主効果、年齢×活動内容の交互作用には有意な差がなかった。

表15 絵本、ままごと、テレビ・ビデオの意義についての比較

項目					活動	年齢	活動×年齢
1.子どもに集中力がつく	年齢	0歳	1歳	2歳	総和	F (2, 430)=209.19, p<.001	F (2, 215)=3.23, p<.05
	N	52	80	86	218	本>ままごと>テレビ・ビデオ	F (4, 430)=1.99, ns
	本	6(0.95)	5.68(1.04)	5.98(0.74)	5.88(0.92)		0歳>1歳=2歳
	ままごと	5.10(1.12)	4.79(1.09)	4.92(0.98)	4.91(1.06)		
	テレビ・ビデオ	4.46(1.38)	4(1.21)	3.90(1.19)	4.07(1.26)		
2.ことばがふえる	年齢	0歳	1歳	2歳	総和	F (2, 432)=205.43, p<.001	F (2, 216)=0.894, ns
	N	52	80	87	219	本>ままごと>テレビ・ビデオ	F (4, 432)=1.436, ns
	本	6.13(0.82)	6.05(0.74)	6.16(0.68)	6.11(0.74)		
	ままごと	5.94(0.61)	5.79(0.76)	5.92(0.84)	5.88(0.76)		
	テレビ・ビデオ	4.87(1.19)	4.65(1.14)	4.51(1.19)	4.64(1.17)		
3.日常生活に必要なことが身につく	年齢	0歳	1歳	2歳	総和	F (2, 430)=166.73, p<.001	F (2, 215)=2.818, ns
	N	51	80	87	218	ままごと>本>テレビ・ビデオ	F (4, 432)=0.789, ns
	本	5.63(1.02)	5.31(1.00)	5.44(0.89)	5.44(0.96)		
	ままごと	5.78(0.76)	5.4(1.09)	5.62(0.81)	5.58(0.92)		
	テレビ・ビデオ	4.49(0.92)	4.26(1.19)	4.18(0.97)	4.28(1.05)		
4.話しをする力がつく	年齢	0歳	1歳	2歳	総和	F (2, 430)=237.58, p<.001	F (2, 216)=1.048, ns
	N	52	79	88	219	本=ままごと>テレビ・ビデオ	F (4, 432)=1.524, ns
	本	5.54(0.94)	5.56(0.97)	5.77(0.81)	5.64(0.90)		
	ままごと	5.62(0.82)	5.54(0.89)	5.74(0.86)	5.64(0.86)		
	テレビ・ビデオ	4.19(1.24)	4.10(1.14)	4(1.15)	4.08(1.17)		
5.子どもが空想したり、夢をもつ	年齢	0歳	1歳	2歳	総和	F (2, 432)=133.40, p<.001	F (2, 216)=1.651, ns
	N	52	80	87	219	本>ままごと>テレビ・ビデオ	F (4, 432)=1.985, ns
	本	5.92(0.99)	5.96(1.11)	6.30(0.67)	6.09(0.94)		
	ままごと	5.90(0.89)	5.64(1.09)	5.87(0.82)	5.79(0.95)		
	テレビ・ビデオ	4.96(1.19)	4.82(1.00)	4.89(1.03)	4.88(1.06)		
6.保育士とのふれあいができる	年齢	0歳	1歳	2歳	総和	F (2, 432)=624.62, p<.001	F (2, 216)=6.76, p<.01
	N	52	79	88	219	ままごと=本>テレビ・ビデオ	F (4, 432)=1.81, ns
	本	6.46(0.70)	6.22(0.69)	6.15(0.65)	6.25(0.69)		0歳>1歳=2歳
	ままごと	6.46(0.64)	6.28(0.83)	6.28(0.73)	6.32(0.75)		
	テレビ・ビデオ	4.02(1.21)	3.67(1.31)	3.32(1.33)	3.61(1.32)		
7.ものごとを深く考えるきっかけとなる	年齢	0歳	1歳	2歳	総和	F (2, 420)=125.434, p<.001	F (2, 210)=0.182, ns
	N	49	78	86	213	本>ままごと>テレビ・ビデオ	F (4, 420)=3.50, p<.01
	本	4.94(1.18)	5.04(1.20)	5.37(0.98)	5.15(1.12)		本で2歳と他の年齢で有意な差
	ままごと	4.80(1.10)	4.87(1.05)	4.85(1.00)	4.85(1.04)		
	テレビ・ビデオ	4.02(1.18)	3.73(1.29)	3.67(1.31)	3.77(1.28)		
8.〇〇を通して、他の子どもとのふれあいができる	年齢	0歳	1歳	2歳	総和	F (2, 432)=624.62, p<.001	F (2, 216)=0.88, ns
	N	52	80	87	219	ままごと>本>テレビ・ビデオ	F (4, 432)=1.86, ns
	本	5.54(1.09)	5.41(0.96)	5.57(0.88)	5.51(0.96)		
	ままごと	6.46(0.64)	6.39(0.68)	6.48(0.71)	6.44(0.68)		
	テレビ・ビデオ	3.88(1.32)	3.65(1.29)	3.41(1.30)	3.61(1.31)		

***p<.001, **p<.01, *p<.05

5)「子どもが空想したり、夢をもつ」は活動による平均点の差が有意で、各活動の評定値間には有意な差があり、絵本、ままごと、テレビ・ビデオの順に評定値が高かった。また、年齢の主効果、年齢×活動内容の交互作用には有意な差がなかった。

6)「〇〇を通して、保育士とのふれあいができる」は活動による平均点の差が有意で、ままごと、絵本、テレビ・ビデオの順に保育士とのふれあいができると評定し、テレビ・ビデオは本、ままごとより有意に低く、本、ままごととは有意な差がなかった。また、年齢の主効果が有意で、0歳と1歳の間有意な差があり、0歳のほうが他の年齢より保育士とのふれあいができると評定していた。

7)「ものごとを深く考えるきっかけとなる」は活動による平均点の差が有意で、各活動の評定値間には有意な差があり、絵本、ままごと、テレビ・ビデオの順に「ものごとを深く考えるきっかけとなる」と評定していた。また、年齢×活動の交互作用が有意で、2歳で絵本が他の年齢より「ものごとを深く考えるきっかけとなる」と評定していた。年齢の主効果はなかった。

8)「〇〇を通して、他の子どもとのふれあいができる」は、活動による平均点の差が有意で、各活動の評定値間には有意な差があり、ままごと、絵本、テレビ・ビデオの順に「他の子どもとのふれあいができる」と評定していた。また、年齢の主効果、年齢×活動内容の交互作用には有意な差がなかった。

保育士が絵本、ままごと、テレビ・ビデオの活動でどのような力がつくかをまとめてみると、

「集中力がつく」、「ことばがふえる」、「子どもが空想したり、夢をもつ」、「ものごとを深く考えるきっかけとなる」は絵本、ままごと、テレビ・ビデオの順に高く評価していた。「日常生活に必要なことが身につく」、「他の子どもとのふれあいができるは」、ままごと、絵本、テレビ・ビデオの順であった。「話しをする力がつく」「保育士とのふれあいができる」は絵本、ままごとの差はなく、テレビ・ビデオが一番低かった。保育士はテレビ・ビデオは8項目すべてで意義がある活動とは評価していなかった。

Ⅲ. 保育活動と保育士の信念

1. 保育士のことばについての信念と保育活動の意義についての信念

保育士の保育内容「言葉の領域」重視点、保育士の言葉かけについての信念と、保育士の保育活動の意義についての信念との関連を明らかにした。

保育内容「言葉の領域」での重視点で抽出された2因子（言葉表現、言葉の豊かさ・楽しさ）と絵本、ままごと、テレビ・ビデオの保育活動に対する8項目の意義合計得点との相関を表16に示した。「言葉の豊かさ・楽しさ」重視のほうが「言葉の表現」重視よりも3つの活動と相関が高く、特に絵本意義得点との相関が.529と高かった。

表16 領域「言葉」の重視点と保育活動の意義との相関

領域「言葉」重視点	絵本意義	ままごと意義	テレビ・ビデオ意義
言葉での表現	0.390***	0.403***	0.009
言葉の豊かさ・楽しさ	0.529***	0.465***	0.125**

***p<.001, ** p<.01, *p<.05

保育士の言葉かけについての信念で抽出された2因子の「足場づくり的言葉かけ志向」、「言語情報志向」と絵本、ままごと、テレビ・ビデオの保育活動に対する8項目の意義合計得点との相関を表17に示した。言葉かけについての信念の「言語情報志向」のほうが「足場づくり的言葉かけ志向」よりも3つの活動で相関が高く、特に絵本意義との相関が.509と高かった。

表17 言葉かけの信念と保育活動の意義との相関

言葉かけの信念	絵本意義	ままごと意義	テレビ・ビデオ意義
足場づくり的言葉かけ志向	0.289***	0.216***	0.192***
言語情報志向	0.509***	0.440***	0.246***

***p<.001, ** p<.01, *p<.05

2. 保育士の各活動の意義への信念と実際の保育活動

絵本、ままごと、テレビ・ビデオの3つの活動に対する8項目の意義合計得点と実際の保育活動の時間や頻度との相関を算出し、表18に示した。

頻度の基本情報は得点が高いほうがその活動をしないうという評定になっているので、マイナスの相関は意義が高いと考えているほど、頻度が高いことを意味している。絵本の所有数以外、意義が高いと考えているほど、実際の頻度、時間も有意に高いという結果であるが、特にその傾向はテレビ・ビデオで見られた。

表18 絵本、ままごと、テレビ・ビデオの意義についての保育士の信念と実際の保育活動

絵本基本情報	絵本意義得点との相関	ままごと基本情報	ままごと意義得点との相関	テレビ・ビデオ基本情報	テレビ・ビデオ意義得点との相関
絵本所有数	0.066				
読み聞かせ頻度 ^{注)}	-0.200***	設定ままごと頻度	-0.241***	テレビ・ビデオ頻度	-0.167***
読み聞かせ時間	0.145**	設定ままごと時間	0.113**	テレビ・ビデオ一日総時間	0.398***
自由場面絵本読み頻度	-0.119**	自由ままごと頻度	-0.145***	テレビ・ビデオ1回平均時間	0.305***
自由場面絵本読み時間	0.144***	自由ままごと時間	0.194***		

***p<.001, ** p<.01, *p<.05

注) 頻度と意義得点の負の相関は意義が高いと考えているほど実際の保育活動での頻度が高いことを示している。

考 察

1. 保育士の言葉の領域の重視点と言葉かけの信念

保育士が重要と考える保育内容「言葉」の領域は言葉で子どもが表現し、コミュニケーションできることと、言葉により豊かな楽しい体験をする2つの点であった。どの年齢でも子どもが言葉で表現・コミュニケーションできる基礎的な能力の方の重視度が高かった。年齢増加に伴い、2つの因子の重視度は高くなった。

保育士の話しかけ信念として「足場づくり志向」と「言語情報志向」が抽出されたが、「言語情報志向」のほうが「足場づくり志向」よりも高かった。また、「足場づくり志向」は0歳児が一番高く、年齢に伴い、減少したが、「言語情報志向」は0歳から2歳で有意に上昇していた。保育士は年齢に応じた働きかけを行い、言語発達を促しているといえる。

2. 保育内容・活動と発達の意義

絵本についての基本情報から保育士は毎日、5-10分の読み聞かせを設定場面で行っている。

また、自由場面でも子どもが絵本をみる時間を毎日つくり、時間は年齢差があるが、5-20分の出現率が高かった。年齢推移をみると0歳から1歳にかけて絵本の保有冊数、設定保育での読み聞かせ時間、自由場面での絵本読み頻度、時間の上昇がみられた。1歳台で言葉の理解が進み、2歳で表象の世界を理解できると並行して保育場面で絵本に子どもが接触する機会が増えているといえる。

ままごと遊びについては「時々する」の出現率が高く、0歳よりも1歳、2歳でままごと遊びをする頻度、時間がふえている。設定保育でのままごと遊びの平均時間は年齢差があるが、21-30分が全年齢平均では一番高く、また、年齢の増加に伴い、時間が長くなった。自由遊び場面では11-20分が全年齢で一番高く、次が21-30分であった。

テレビ・ビデオのメディア視聴は「めったにみせない・みせたことがない」の出現率が全年齢平均で66.4%にのぼった。視聴時間について、340のデータで0分で、この0分のデータを除いて視聴時間の平均を算出しても、視聴時間の平均は18.30分であった。テレビ・ビデオのメディア視聴は保育園では頻度、みせる時間も非常に低かった。テレビ・ビデオ視聴が子どもの発達に意義があるという信念をもっている保育士は実際の保育活動でテレビ・ビデオ視聴の時間を長くとり、頻度も高かった。

日本小児科学会（2004）は17ヶ月から19ヶ月1900人の保護者を対象とした調査を行い、テレビ視聴が4時間以上の子どもでは4時間未満の子どもにくらべ、有意味語の出現の遅れが約2倍に達していたことから、「2歳までの子どものテレビ・ビデオ視聴を控えよう」という提言を行っている。17ヶ月から19ヶ月という言語出現期の個人差が非常に大な時期にテレビ視聴だけをとりあげ、このような提言を行うことの是非は議論があるところである。これと軌を一にして、日本でも大規模プロジェクトが行われ成果が報告されている。NHKの「子どもに良い放送プロジェクト」では、映像メディアが子どもの認知能力、身体発達、行動、社会的認識への影響を明らかにするために川崎市で平成14年に出生した約1000名の子どもを毎年1回、12歳までの追跡研究が実施され、平成16年から毎年3月に報告書が公表されている。第3回調査報告書によれば、1週間の視聴日誌を用いた0歳1160名、1歳1070名、2歳1060名の調査によると、1日平均で0歳児は「専念視聴」が12分、「ながら視聴」が53分、「ついているだけ」が2時間8分でテレビ接触時間が3時間13分、1歳児は「専念視聴」が24分、「ながら視聴」が1時間20分、「ついているだけ」が1時間40分でテレビ接触時間が3時間23分、2歳児は「専念視聴」が24分、「ながら視聴」が1時間7分、「ついているだけ」が1時間12分でテレビ接触時間が2時間44分であった。NHK報告書のまとめによると、0, 1, 2歳と年齢が上がるにつれ、「ついているだけ」の時間は減少する。また、1歳時点で約8割の母親が、乳児がテレビの内容を理解し始めていると答え、2歳時点で半数以上の母親が、乳児の見たい番組がだいたい決まっていると答えている。こうした乳児達がよく見るテレビ番組は、幼児向け番組とアニメ・マンガであることが報告されている。また、ビデオについても調査している。0歳児のビデオ接触率は59%、接触者平均時間は34分、全員平均時間が20分、1歳児のビデオ接触率は78%、接触者平均時間は47分、全員平均時間が37分、2歳児のビデオ接触率は85%、接触者平均時間は50分、全員平均時間が43分であった。2歳になるとビデオについては接触者、視聴時間ともに増え、ビデオへの関心の高まりがうかがえるとしている。

テレビ視聴量と言語発達との関連も報告されている。一色・鮑戸・松本（2005）で、18-24ヶ月で日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙身振り版（小椋・綿巻，2004）の語彙表出でテレビ接触時間、テレビ視聴時間を「特に多い」（2シグマ、上位2.5%）、「かなり多い」（1シグマ、上位13.5%）、「それ以外の下位群にわけると、接触時間、テレビ視聴時間の下位群で表出語数が多い」という結果を得た。テレビの視聴が低い方が表出語彙数は高かったが、語彙理解については、関連は認められなかった。また、鮑戸・酒井・菅原（2006）では、子どものビデオ視聴の多さと子どもの語彙数の低さとの間に関連が認められ、絵本読み時間の多さと語彙数の多さとの間に関連が認められていたことを報告している。

本報告では、保育園でのテレビ・ビデオの視聴率、視聴時間の低さ、保育士がテレビ・ビデオの視聴の意義の項目で「どちらでもない」の回答が一番高く、また、言葉については「はなしをする力がつく」の肯定回答（どちらかといえばそう思う—非常にそう思う）が25.3%、「ことばがふえる」が44.9%であった。調査の対象が0歳から2歳という言葉の出現期であるので、テレビ・ビデオを大人からの働きかけなくして見せることはゆたかな言葉の発達を育む保育環境とはいえないと保育士は考えていることが明らかとなった。ただ、菅原（2006）の研究で0, 1, 2歳の両親の解説行動（テレビ内容に関する会話）と1歳時、2歳時の表出語彙との関連で、両親の0歳時点の解説行動は1歳時点での語彙獲得に促進的な作用をし、母親についてはその後も1歳時の解説行動が2歳時の語彙獲得を促進し、かつ1歳児の子どもの語彙量が2歳時での母親の解説行動を促進するという関係を見出している。一方、Zimmerman, Christakis & Meltzoff

(2007)では、乳児期のDVDやテレビの視聴が語彙発達に影響するかどうかを検討するために、2～28ヶ月児を対象に、親とのインタラクションの時間、DVDやビデオの視聴時間・種類や、言語発達の尺度であるコミュニケーション発達尺度(CDI)を調べ、赤ちゃん向けのDVDやビデオの視聴は早期幼児期の語彙発達にネガティブな影響を与えること、親と一緒にテレビを視聴しているかどうかは言語発達に影響を与えないことを報告している。旦・開(2009)の子どものテレビ接触時期についての調査で、ほとんどの子どもが生後1ヶ月以内にテレビに接しており(但し、これは子どもがテレビのついている部屋に初めていた時期であって、子ども自身が積極的にテレビを視聴し始めた時期を示すものではない)、子どもがテレビに興味を示すようになる時期は、0歳代後半で注意を向けるようになる子どもが多く、最も早い子どもでも生後4ヶ月であったことを報告している。Kuhl, Tsao, & Liu(2003)は9-10ヶ月の英語圏の乳児に中国語非母国語音声を学習させるのに、DVDを通して聞かせるよりも絵本や玩具で遊びながら生で聞かせたほうが成績がよく、音声学習においても社会的なインタラクションが効果をもっていることを報告している。映像は一瞬に呈示されるだけで場面が次々にかわってしまう、子どもが働きかけてもテレビ・ビデオ自体からは反応がないなど問題もある。しかし、我々の毎日の生活の中にテレビ・ビデオは浸透しており、子どもへの見せ方など、今後検討を行い、子どもの発達に意義あるものにしていく必要がある。

絵本については、ほぼ半数の保育所が11-20冊の絵本を各年齢で保有し、毎日、読み聞かせを5-10分行い、自由遊び場面でも絵本を読む機会をつくっていた。また、保育士は絵本を通じて保育士との触れ合い、イメージや言語の発達を促進する意義があると80%以上の保育士が回答していた。絵本意義得点と「言葉」の領域で「言葉の豊かさ・楽しさ」重視との高い相関があり、また、子どもへの話しかけ方では、「言語情報志向」と絵本意義との相関が高かった。言葉で伝え合うことの楽しさ、喜びを重視し、また、言語情報を与えることを重視する保育士は絵本の活動が有効であると考えていることが明らかとなった。寺田(2004)によれば、2歳頃に大人と子どもの絵本の読み語りにおけるフォーマット(型、形式)が形成され、登場人物と同一化し、絵本の世界に入り込んで楽しむことができ、平均すると1日に9語から13語獲得しているという。先にテレビの項で紹介した飽戸ら(2006)で、絵本読み時間の多さと語彙数の多さとの間に関連が認められていることから絵本読みはゆたかな言語発達を保障するのに有効な活動であることが実証されており、また、保育士も言葉をはじめとして、子どもの発達を促進する意義ある活動と評価していた。

ままごと遊びについては、設定場面での頻度は「時々する」、時間は「21-30分」の出現率が全年齢で一番高く、0歳よりも1歳、2歳ではままごと遊びをする頻度、時間ともふえていた。自由場面でも同じように「毎日ある」「ほとんど毎日ある」の頻度が高く、時間は11-30分で、0歳よりも1歳、2歳ではままごと遊びをする頻度、時間ともふえていた。Piagetによれば、感覚運動期の第VI段階の生後2年目の終りに「あるものを他のもので表現する」象徴機能の発達が生起し、この象徴機能の発達により、言語、延滞模倣、象徴遊び、心的表象、描画の獲得が可能となる。みため、ふりの象徴遊びや日常生活が延滞模倣でままごと遊びの中で再現されており、本報告の1歳、2歳のままごと遊びの頻度、時間の増大は子どもの精神発達にそい、保育環境が整えられていることを示している。保育士は本報告でとりあげた3つの活動のうち、ままごとが一番「他の子どもとのふれあいができる」と「日常生活に必要なことが身につく」としていた。また、因子分析の結果からは、ままごとの意義は言葉をはじめとする能力の獲得と保育士、子ども同士のコミュニケーションを促進すると考えていた。

小椋(2008)によれば、遊びは人へのかかわり、物へのかかわりを促進する。言語は音声に意味づけがなされ、遊びは事物に意味づけがなされ、両者は象徴機能の発達を反映し密接に関係していて、言語と遊びの平行発達を示す沢山の報告がなされている。また、事物を介した遊びは人との関係を育て、物の世界への認識を深め象徴機能を育てるのには有効な場であるといえる。

絵本、ままごと、テレビ・ビデオの各保育活動に対して発達の意義が高いと保育士が考えているほど、設定場面、自由場面で実際に行う頻度、時間が高かった。特にその傾向はテレビ・ビデオで強かった。日常の保育活動は保育士の信念の反映でもあることの一端が質問紙調査から明らかになったが、日常の保育の実際との関係を明らかにすることはしていない。保育士の信念が実際の子どもの保育活動にどのように反映され、子どもの発達にいかなる影響を及ぼしているのかを明らかにすることが必要である。

子どもを取り巻く環境についてわが国の現状を見ると、保育所で保育を受けている子ども(0歳児から6歳児)は全国で2,137,962人(厚生労働省大臣官房統計情報部社会統計課「社会福祉施設等調査報告」平成20年10月1日現在)である。保育所における環境(物的条件や、保育士の子どもへの働きかけ)が、子どもの発達に大きな影響を及ぼすことから考えても、保育内容、保育活動の充実が極めて重要である。日常の保育活動で、それぞれの活動に対する保育士の信念が大きくかかわっていることが本研究から示唆された。保育士の信念形成にあたっては、科学的な客観的な、よりEvidence-Basedな観点に裏付けられた知見からの信念であることが重要であると考える。

文献

- 秋田喜代美・無藤隆(1996). 幼児の読み聞かせに対する母親の考えと読書環境に関する行動の検討. 教育心理学研究, 44, 109-120.
- 一色伸夫・鮑戸弘・松本聡子(2005). テレビ・ビデオ接触の言語発達に与える影響. "子どもに良い放送プロジェクトフォローアップ調査第二回調査報告書, pp50-59. http://www.nhk.or.jp/bunken/research/bangumi/kodomo/list_kodomo1.html
- Kuhl, P., Tsao, F.M. & Liu, H.M.(2003). Foreign-language experience in infancy: Effects of short-term exposure and social interaction on phonetic learning. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, 100(15), 9096-9101.
- McGillicuddy-Delisi, A. V. & Sigel, I. E.(1995). Parent beliefs. In M.H. Bornstein(Eds.) *Handbook of Parenting vol.3 Status and Social Conditions of Parenting* (pp.333-358). Mahwah, NJ: LEA.
- 村瀬俊樹(2004). 乳児の絵本の読み聞かせについての信念に関する研究 —公共図書館の養育者向けガイド文書の日米比較—. 社会文化論集(島根大学法文学部紀要社会文学科編, 1, 17-30.
- 村瀬俊樹(2009). 1歳半の子どもに対する絵本の読み聞かせ方および育児語の使用と母親の信念の関連性. 社会文化論集(島根大学法文学部紀要社会文学科編, 5, 1-17.
- 村瀬俊樹(2009). 絵本における言語表現に関する日米比較研究. 平成18年度～平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書.
- 日本小児科学会(2004). 提言: 乳幼児のテレビ・ビデオ長時間視聴は危険です. こどもの生活環境改善委員会 <http://www.jpeds.or.jp/saisin-j.html>
- 小椋たみ子(2008). シンボル機能の発達とその支援 —言語発達の予測要因—. 発達障害研究, 30(3), 164-173.
- 小椋たみ子・綿巻徹(2004). 日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙「語と身振り」. 京都国際社会福祉センター.

- 菅原ますみ(2006). 乳幼児期のテレビ・ビデオ接触の実態および社会情緒的発達との関連 — 0歳・1歳・2歳の3時点調査から—."子どもに良い放送プロジェクトフォローアップ調査第三回報告書, pp61-81.
- Sigel, I. E. & McGillicuddy-Delisi, A. V.(2002). Parent beliefs are cognition: The dynamic belief systems model. In M.H. Bornstein(Eds.) *Handbook of Parenting Second Edition vol.3 Being and Becoming a Parent*(pp.485-508). Mahwah, NJ: LEA.
- 旦直子・開一夫(2009). 乳幼児におけるテレビ映像の発達に関する研究. 発達研究 (発達科学研究教育センター), 23, 115-130.
- 寺田清美(2004). 乳幼児の心を育む絵本との関わり. 発達 (ミネルヴァ書房), 99, 18-22.
- Zimmerman, F. J., Christakis, D. A. & Meltzoff, A. N.(2007). Associations between media viewing and language development in children under age 2 years. *The Journal of Pediatrics*. 151 (4), 364-368.

付記：本研究は平成21年度児童関連サービス調査研究等事業の一環として、財団法人こども未来財団の委託を受けて調査研究が実施された。本研究に御協力いただいた保育所、保育士の方々に厚く御礼申し上げます。